

長大在学生在が 4年生へ インタビュー



インタビュー
古賀愛子さん

山口嵩生さん

工学部4年



自身の将来と向き合い、 やりがいを見つけた “4年間”

水泳競技大会の同期との集合写真



水泳部やGP(長崎発グローバル人材育成プログラム)に所属している山口嵩生さん。勉学や部活動など、学生生活を振り返っていただきました。

古賀／大学での学びが進路選択にどのように影響しましたか。

山口／専門的な授業の受講や、インターンシップへの参加を通じて、学びを実践的に深める方法、また、将来どのような職種に就きたいか考えることができました。インターンシップを通じて、「もっと学びたい」と思う分野を見つけることができたので、卒業後は大学院に進学して、詳しく学んでいこうと考えています。

古賀／他に進学を選んだ理由はあるですか。

山口／研究者に憧れを持ったからです。学部の4年間で学べることはかなり限られているので、大学院に進むことで、より専門的な知識の習得や、研究課題の解決などに取り組みたいと考えました。また、憧れとする研究職への就職にも活かせると思い、大学院進学を決めました。

古賀／山口さんは、勉強だけでなく部活動にも熱心に取り組んでいたと伺いました。部活動で印象に残っていることはありますか。

山口／僕は水泳部とGPに所属していました。水泳は個人種目というイメージが強いのですが、大きな大会に向け、仲間同士で切磋琢磨しながら取り組んだことが良い思い出です。GPではプレゼンテーション大会に向けて、メンバーのモチベーションを上げることや、団体の組織づくり・運営を行うことで、達成感や喜びを味わうことができました。

古賀／部活動では、どのような瞬間にやりがいを感じましたか。

山口／水泳部では、試合で結果が出たとき、GPでは、イベント後に留学生やイベントの参加者に「楽しかったよ」と言われたときです。部活を掛け持ちして忙しかったのですが、その中でメンバーと助け合って何かを成し遂げることに、やりがいを感じました。この活動で、自分は非常に大きく成長することができたと思います。

古賀／私も成長できるよう、勉学と部活動を頑張りたいと思います。



GP主催のイヤーエンドパーティーにて留学生と、すぐろくを楽しむ

長大在学生在が 4年生へ インタビュー



コロナ禍のため
インタビューは
オンラインで
おこないました！
下窪千夏さん

厚田梨帆さん

多文化社会学部4年



新しい世界を 見つけた経験

国連で行ったプレゼンの集客のためチラシを作り
会議に出席している方に配付



核兵器廃絶長崎連絡協議会が主催する「ナガサキ・ユース代表团」の第7期生として活動を行った厚田梨帆さん。ナガサキ・ユース代表团での活動を振り返っていただきました。

下窪／実際の活動で印象に残ったことは何でしょうか。
厚田／核兵器廃絶について、国際連合(国連)で英語によるプレゼンテーションをしたことです。核兵器廃絶に関心のある方30人ほどにインタビューを行い、その方の思いや背景を反映した動画を作りました。プレゼンはチームで行ったのですが、メンバーは一人一人平和に

対する思いや認識、関心が違うので、完成させるのが大変でした。

下窪／プレゼンを聞いた方たちの反応はどうでしたか。
厚田／とても興味を持ってもらえました。また、プレゼンを聞いてくださった方にアンケートをしたのですが、97%の方が『ヒバクシャに対する意識が変わった』と答えてくださいました。「長崎の学生からの意見が伝わったんだ」と感じ、うれしくなりました。

下窪／充実していたナガサキ・ユース代表団の活動で、厚田さんご自身の変化や成長はありましたか。

厚田／ナガサキ・ユース代表団のメンバーになる前は、国際関係などの社会問題に関心がありませんでした。しかし、活動を通しての学びや、人との出会いによって、自分の考え方や興味が変わったと思います。また、自分がチームの中でどのように動くべきかを考えられるようになったことが、成長だと感じています。

下窪／ナガサキ・ユース代表団の活動を終えた後も、平和に関する活動をされていますか。

厚田／活動が終わった後、アメリカに留学しました。コロナウイルスの影響で実現できなかったのですが、国連で知り合った長崎出身の方と、トリニティサイトという核実験が行われた場所に行く計画も立てました。また、アメリカ人が核兵器に対してどう考えているのかを知りたいと思い、核兵器に関する授業を受けました。他にも、NGO団体ピースボートが行っているイベントで国連を訪問し、世界中の人と核兵器についての意見交換会をしました。

下窪／これまでの経験を、これからどう活かしていきたいですか。

厚田／ユースの経験を通して今ある社会に強い関心を持つ大事さを学びました。社会人になって、仮に平和活動と直接的な関わりがない仕事に就いたとしても、常に社会問題に興味を持ち、学び続けたいと思います。

NGO団体ピースボートが行っている
イベントで様々な背景を持った
若者との意見交流

